

これならわかる iDeCo (イデコ) 第8回

2017年3月8日

全3頁

投資教育は運用を助けるカギとなる？ (2)

コツは「基本的な知識」の習得から始めること。

金融調査部 研究員 佐川 あぐり

今回も前回に引き続き、「投資教育」について取り上げます。「投資教育」は、企業や国民年金基金連合会が、制度の仕組みや資産運用に関する基本的な知識等を習得する場を、加入者に提供するものです。加入者は、主体的に必要な知識を習得し、自身の金融リテラシーを上げていくことが重要です。とは言え、難しいイメージを抱く人も多いかと思います。今回は、「投資教育」における具体的な内容を確認し、そんなに難しくないイメージに変えられるように、解説したいと思います。

DCの投資教育については、企業年金連合会が「企業型確定拠出年金投資教育ハンドブック¹」(平成26年11月)というものを刊行しています。企業型DCを実施する企業のDC担当者の手引書(マニュアル)として活用されているものですが、iDeCoを含むDCの加入者にとっても、参考にしたい部分が多くあります。例えば、この中で、投資教育の具体的な内容については「投資教育の内容は幅広く、(中略)必ず提供すべき『基本的な知識』と、応用的な『望ましい知識』とに整理し、無理なく効果的な投資教育を行う必要があると考えられる²」とされています。つまり、まずは「基本的な知識」から始めて、その後「望ましい知識」を習得するというように、DCの加入者が段階的に理解を深めていくような方法が効果的だとしています。確かに、投資教育の内容全体を一つ一つ理解するには、相応の時間と労力が必要になります。まずは「基本的な知識」から始めることで、加入者の負担も小さくなるのではないのでしょうか。

投資教育の基本的な知識とは？

投資教育において「基本的な知識」とされている内容について確認しましょう。大きく四つに分けられており、一つ目は「確定拠出年金制度の理解」、二つ目は「投資を行うに当たって必

¹ 企業年金連合会では、DCに係る課題や背景を踏まえ、「企業型確定拠出年金投資教育ハンドブック」を刊行しています。この第1版が「確定拠出年金における投資教育のあり方に関する検討会」で取りまとめられた報告書(平成19年9月)であり、その後の法令改正等を反映し、平成26年11月に第3版が刊行されています(https://www.pfa.or.jp/jigyو/jimushien/files/dc_handbook.pdf)。

² 「企業型確定拠出年金投資教育ハンドブック」(平成26年11月)21ページ。

要な知識」、三つ目は「リタイアメントプランニングに必要な知識」、四つ目は「制度を活用していくに当たって必要な知識」となります（図表1）。さらに、それぞれ細かくポイントが示されています。

一つ目の「確定拠出年金制度の理解」については、制度の特徴や運用商品の選択方法などが具体的なポイントとして挙げられています。[第2回](#)、[第3回](#)でも取り上げていますが、「加入する→掛金を拠出する→資産を運用する→資産を受け取る」という iDeCo の基本的な仕組みを理解していく中で、その内容の多くを習得できるといえます。

二つ目の「投資を行うに当たって必要な知識」については、投資経験の有無によって加入者の理解度に差が出る内容といえます。例えば、DC の主な運用商品となる投資信託の特徴やその投資対象となるアセットクラスの種類や特徴、またリターンとリスクの関係など、ある程度投資経験があれば比較的容易に理解できる内容かもしれませんが、しかし、投資経験が少ない加入者にとっては、聞きなれない言葉に難しいと感じることも多いと思います。ここでは、投資教育を提供する企業等が、加入者の知識レベルに合わせた内容で進めていくことが必要になりますし、加入者も一度で理解しようとせずに、理解しやすい内容から一つずつ習得していくとよいのではないのでしょうか。

図表1 DC の投資教育における基本的な知識

1) 確定拠出年金制度の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・確定拠出年金制度の特徴 ・加入対象者 ・掛金額とその決定方法 ・運用商品の選択肢 ・運用商品の預け替え機会と変更の方法 ・給付の種類、受給要件、開始時期、受取方法 ・ポータビリティの仕組みとその方法 等
2) 投資を行うに当たって必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・運用商品の種類と特徴(預貯金、保険商品、投資信託等) ・アセットクラスの種類と特徴(株式、債券、為替等) ・リターンの概念と投資対象ごとに期待できるリターンのレベル ・リスクの概念と投資対象ごとの具体的リスク(例:標準偏差)のレベル ・分散投資の重要性と効果(アセットアロケーション) ・長期投資の意義と複利効果 ・定期的な積立投資の意義と効果 ・リスク許容度の概念と考え方
3) リタイアメントプランニングに必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・老後の資産形成は現役時代に取り組む必要があること ・現役時代のライフプランを勘案すると、老後資産形成は早期かつ長期で取り組むべきこと ・男女それぞれのリタイア後の年齢の平均余命は一般的想定より長いこと ・標準的な公的年金水準と受給開始年齢 ・標準的なセカンドライフの家計支出水準 ・公的年金は終身給付であること ・老後の期間、不足額等を勘案して求められる資産形成の必要額
4) 制度を活用していくに当たって必要な知識	<ul style="list-style-type: none"> ・規約等のルールへアクセスする方法 ・コールセンターやWebへアクセスする方法 ・社内の問い合わせ窓口 ・運用指図の具体的手順 ・口座残高、運用記録等へのアクセス方法およびその読み方 等

(出所) 企業年金連合会「企業型確定拠出年金投資教育ハンドブック(平成26年11月)」を参考に大和総研作成

三つ目の「リタイアメントプランニングに必要な知識」については、加入者にとって将来のライフプランを具体的にイメージするよい機会と捉えることもできます。現在、わが国の公的年金の財政は非常に厳しく、中長期的にみて給付水準は調整されていくことが見込まれます。また、平均寿命が延びており、老後の生活は想定よりも長くなることが予想されます。公的年金の不足が見込まれる一方で老後生活は長期化する、そのために、現役時代にどれだけの貯蓄をしておけばよいのか、具体的な必要額を目標として資産形成を行っていくことが必要になります。標準的な家計支出水準や、今後のライフステージの中で想定される資金需要など、現役時代にどれだけの資金が必要となるのかということについても、具体的にイメージしておく必要があるでしょう。

四つ目の「制度を活用していくに当たって必要な知識」については、[第 5 回](#)でも取り上げていますが、口座を開設する運営管理機関によって異なる内容となります。WEB サービス・コールセンターへのアクセス方法や、資産内容の状況確認方法、また、iDeCo 全般に関する質問や困った時の相談窓口の対応など、制度を上手に利用するためにも、しっかりと理解しておく必要があります。

「基礎的な知識」の習得から始めることがコツ

以上のように確認すると、投資教育における「基礎的な知識」については、難しいというよりも、加入者が制度を上手に利用するために主体的に取り組むべき内容が多くなっていることがわかります。「基礎的な知識」を習得することから始めることで、投資に対して加入者が抱えている難しいイメージも、だいぶ軽減されるのではないのでしょうか。もちろん、「基礎的な知識」の次の段階となる「望ましい知識」についても、加入者が積極的に習得することで、iDeCo をより上手に活用できるようになるかと思えます。その具体的な内容を図表 2 に示しているので、ぜひ参考にしてください。

図表 2 DC の投資教育における望ましい知識

- ・市況(マーケット)の見方
- ・個々のアセットクラスごとの価格変動要因とその例示
- ・ライフプランニング(主に現役時代のマネープラン)
- ・リタイアメントプランニング(主に老後の家計管理や資産管理の方法)
- ・個人資産も含めたトータルアセットアロケーション検討の重要性
- ・セカンドライフにおける資産管理方法
- ・公的年金や社会保障制度に関する知識
- ・確定拠出年金以外の退職給付制度
- ・会社が行っている自助努力支援制度(財形、持ち株会等) 等

(出所) 企業年金連合会「企業型確定拠出年金投資教育ハンドブック」(平成 26 年 11 月) を参考に大和総研作成

以上